

### 3 飲食料品製造・販売事業者のリデュースを中心とする食品容器包装3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組み事例と今後の展望

飲食料品製造・販売事業者を対象として、飲食料品容器包装3Rへの取組みに関する事例調査を実施した。調査においては、過去に食品産業センターで収集整理した3R取組み事例や、食品産業センターが行ったアンケートへの回答、関係省庁（経済産業省、環境省等）、八都県市容器包装ダイエット宣言の活動報告、紙製容器包装リサイクル協議会技術委員会資料、飲食料品メーカーの発行する環境報告書、CSRレポートなどをもとに、東証一部・二部上場食品企業の他、お土産製造・販売事業者を含む中小企業等の取組みについて収集、整理した。

#### 3.1 事例収集の考え方

とりまとめにあたっては、昨年度同様、消費者にとって事業者の取組みの理解が深められるよう、また他の飲食料品関連事業者の参考となるよう、表3-1のように取組み項目別、素材別に整理をおこなった。

表3-1 取組み項目の分類基準

|                   |   |
|-------------------|---|
| ①軽量化・薄肉化・小型化      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 軽量化のための容器変更</li> <li>・ 容器の大きさ・厚さの変更 等</li> </ul>   |
| ②詰め替え化            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 詰め替え袋の導入</li> <li>・ 詰め替え製品の充実 等</li> </ul>   |
| ③簡易包装<br>(包装の簡素化) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中トレイ・小袋等の廃止</li> <li>・ 小袋等の使用量の削減 等</li> </ul>   |
| ④リユース             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リターナブルびんの採用</li> <li>・ リターナブルの実践 等</li> </ul>  |
| ⑤易リサイクル化          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 易リサイクルのための複合素材から単一素材への変更</li> <li>・ ミシン目を入れる・たたみやすい工夫・はがしやすいラベル等の分別しやすい工夫</li> <li>・ 透明ボトルへの変更 等</li> </ul>  |
| ⑥その他              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境に配慮した容器包装設計指針等</li> <li>・ バイオマス製品の採用</li> <li>・ 再生材の利用</li> <li>・ はかり売り</li> <li>・ 再生可能原料にするための（石油を使わない）容器変更</li> <li>・ 通い箱の採用</li> <li>・ CO2削減のための容器変更</li> <li>・ 輸送時の環境負荷低減 等</li> </ul> |

### 3.2 飲食料品製造・販売事業者等全般の事例

#### 3.2.1 傾向

今回収集した各社の取組み事例について、事例を素材別にみると、プラスチック製容器包装が103件と最も多く、次いで紙製容器包装48件、ガラスびん41件であった（図3-1）

取組み項目別では、軽量化・薄肉化・小型化が97件と最も多く、次いで易リサイクル化53件、その他49件であった（図3-2）。昨年度の調査と比較すると、収集企業数が増加したことから、すべての取組みにおいて件数が増加していた。

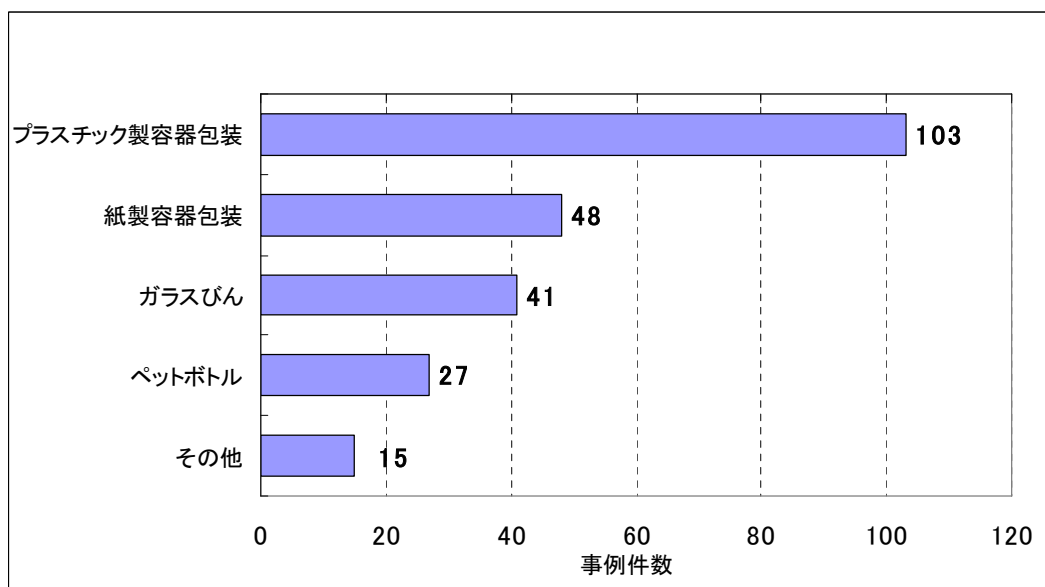


図3-1 素材別取組み事例件数

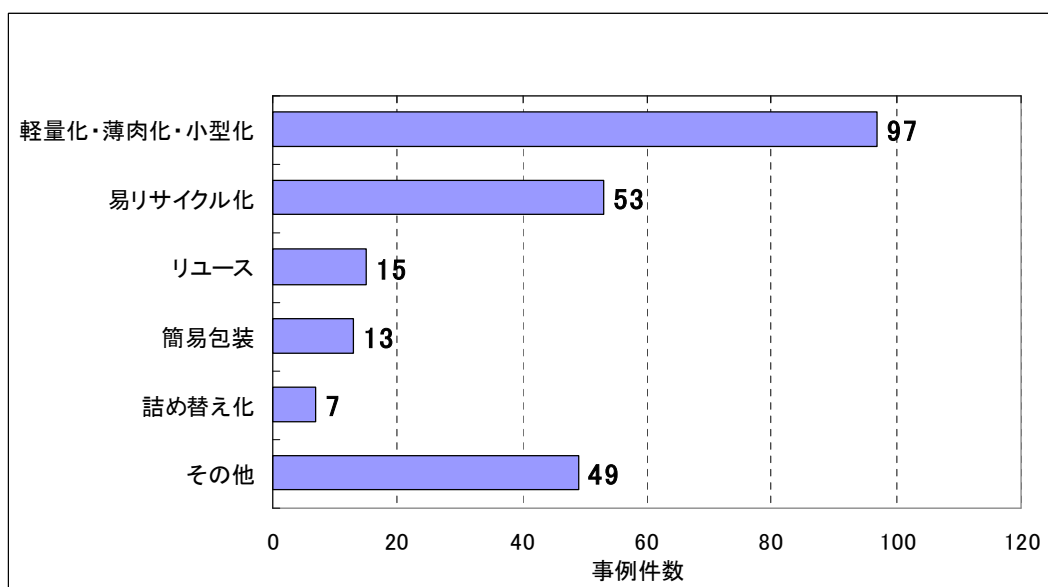


図3-2 取組み項目別取組み事例件数

素材別・取組み項目別に内訳をみると、図3-1、図3-2の結果を反映してプラスチック製容器包装における軽量化・薄肉化・小型化への取組み事例が最も多かったが、易リサイクル化、その他の取組みもかなりみられた。傾向としては、ガラスびん、紙製容器包装では様々

な取組みが行われているものの、ペットボトル、プラスチック製容器包装では、軽量化・薄肉化・小型化と易リサイクル化、その他の取組みが多い傾向にあった（図3-3）。

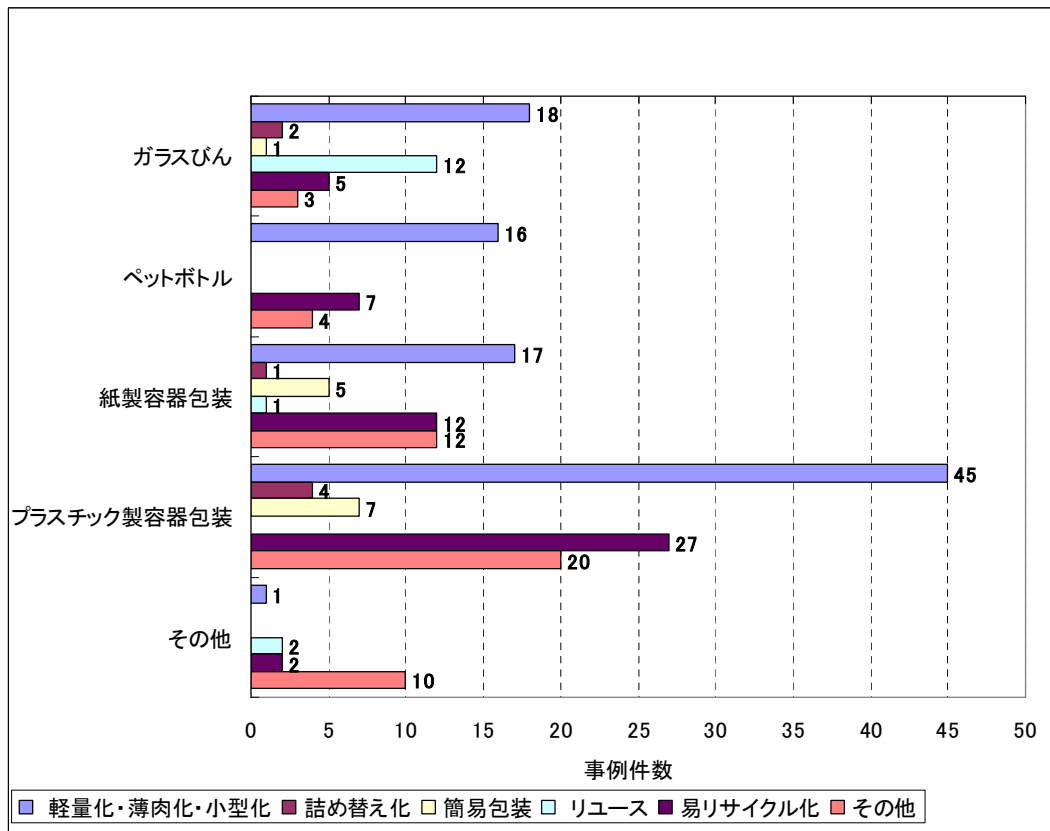


図3-3 素材別・取組み項目別取組み事例件数

なお、今回の調査では缶、ダンボール素材は対象外とした。また、同一企業の同一素材において同様の取組み項目がある場合は、事例が複数存在しても1件として集計している。

### 3.2.2 事例詳細

飲食品製造・販売事業者取組み事例を取組み項目の分類基準（表3-1）によりとりまとめた事例集は、次のとおりである。

なお、報告書作成時点で掲載を許可いただいた事業者についてのみ示すこととする。

### 3.3 お土産製造・販売事業者の傾向

お土産製造・販売事業者による食品容器包装3Rの取組みは、公表されている事例が非常に少ない。このため、全国で販売数が多く人気が高い商品を製造・販売している企業に対して、まずは電話によるヒアリングを行った。その結果、容器包装メーカーと共同で企画段階から小型化・薄肉化を考慮した容器包装の開発を行っている事例や、強度に支障をきたさない程度に手提げ袋の薄肉化を行っている事例、また、簡易包装に取組んでいる事例がいくつかみられた。しかし、取組内容を公表できる段階ではないケースや、取組みを行っていない企業、把握していない企業も多く、お土産製造・販売事業者の間では、食品容器包装3Rの取組みについてあまり積極的に行われていない状況であった。

### 3.4 今後の展望と課題

お土産製造・販売事業者による食品容器包装3Rの取組みがすすまない理由としては、お土産は贈答品であるという性質上、綺麗に包装されていたり、凝ったパッケージが好まれる傾向にあるためなどの顧客ニーズに応じていく必要があることが挙げられる。

また、お土産品は長距離持ち運ぶケースが多く、お菓子のようにやわらかい商品や割れてしまう可能性のある商品などは、商品価値を保つため形状を守る必要があり、安全性や機能性の面から考えても、容器包装にある程度強度が求められる。

しかし、家庭消費に関しては容器包装削減の流れは進んでおり、贈答用に関しても、最近では大幅な削減は難しいものの、過度な包装を取りやめたり、商品提供時に包装形態や手提げ袋の数を聞くなど、可能な範囲で3Rに取組む企業が出てきている。

今後、お土産製造・販売事業者による食品容器包装3Rの取組みを促進していくためには、企業側が積極的に取組みを進めていくだけでなく、消費者の意識変革を促す情報提供を行っていく必要がある。